

第6回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会 会議録

1 日 時 令和5年(2023年)5月25日(木)19:00~20:30

2 場 所 大津コミュニティセンター 学習室4・5・6

3 出席委員 11名

4 事務局等	教育総務部	部長	古谷	久乃
	学校教育部	部長	川上	誠
	教職員課	課長	筒井	宣行
	学校管理課	課長	二見	裕
	教育指導課	課長	鈴木	史洋
	支援教育課	課長	小谷	亜弓
	教育政策課	課長	飯田	達也
	教育政策課	主査	大堀	圭輔
	教育政策課	主任	高品	慎介
	教育政策課	担当者	松本	勇人
	大津行政センター	館長	鈴木	宏史(オブザーバー)

5 傍聴者 7名

6 議事内容

○飯田教育政策課長(事務局)

定刻となりましたので、第6回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会を始めます。

令和5年度になりまして、事務局及び協議会委員の構成員に一部変更がありますので、紹介をいたします。

◀ 事務局及び新委員の紹介 ▶

次に、傍聴に関する実施要領の改正についてご報告いたします。

配布している「地域別小中学校教育環境整備検討協議会の傍聴に関する実施要領」をご覧ください。

下線の（７）について、昨今の電子機器の普及状況等を受け、傍聴者がメモをする際に電子機器を使用することができる旨の規定に要領を改正しました。委員の皆さまにおかれましては、ご承知くださいますようお願いいたします。

「地域別小中学校教育環境整備検討協議会の傍聴に関する実施要領」に基づき、本日は7名の傍聴があります。

次に、会議を開催する前に確認をいたします。会議録については公開いたします。会議録作成のために録音いたします。委員の皆さま、よろしいでしょうか。

〈 各委員から異議なしの声 〉

「地域別小中学校教育環境整備検討協議会設置要綱」第4条第2項の規定により、本協議会の開催に当たっては、半数以上の委員の出席が必要となります。

本日は、委員12名中11人が出席されておりますので、本協議会は成立してございます。

それでは、これより進行を委員長にお願いしまして、議事を進めていきます。委員長、よろしく申し上げます。

（委員長）

前回は欠席させていただきまして、申し訳ございませんでした。代わりに副委員長に、議事をお任せしましたが、大変スムーズに行ったとお聞きしております。

今回も、それに負けないように頑張りますので、よろしく申し上げます。

それでは次第の1、教育環境整備の意見等の整理について、事務局から説明をお願いいたします。

〈 「第6回走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会」の資料1から資料2について事務局から説明 〉

○大堀教育政策課主査（事務局）

資料1・資料2の形で審議会に報告したいと考えておりますので、この内容について、追加、修正等ありましたら、ご意見等いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

（委員長）

ただいま事務局から説明がありました内容につきまして、ご質問やご意見がありましたら、挙手でお願いいたします。

（委員）

資料1の中で、走水・馬堀地区の小学校の児童学級推計というものがあり、「速報値のため今後変更となる場合がある」とのことですが、年度当初にもらった資料と大分差がありますが、これは何に基づいて出している推計なのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

こちらは、住基のデータを基に推計を出しています。例えば年齢ごとに、走水地域において、0歳が何人、1歳が何人、2歳が何人というように、住基のデータがあり、それが各年でスライドしていくようなイメージになります。それを積み重ねたものがこの推計という形になっています。

○飯田教育政策課長（事務局）

おそらく前回というのは、昨年の同時期に出させていただいた資料のお話だと思います。その中で令和10年度の走水小学校の児童数が61名という数字を推計として記載しています。

今回の資料では、令和11年度に36人ということで、大きく減ってるという点についてご質問をいただいたと思っています。

この数字につきましては、担当からお話したとおり、住民基本台帳の人口を基に推計をしています。

令和4年度は、0歳から5歳までのお子さんの数が54人いました。その54人が持ち上がってくるような形で推計をさせていただいています。ただ、令和5年4月1日の住民基本台帳の就学前の人口というのは、40人という結果になっております。その差が14人ということですので、それが5年後6年後に反映されるということで、大きく減ってきているのかなというように考えております。

（委員）

随分減ってしまいますね。

○飯田教育政策課長（事務局）

今年の4月1日の住民基本台帳の人口を、今年の4月の中旬ぐらいに手に入れましたが、その時にこの数字を見て、驚きまして、かなり減ってるなという印象がありました。

（委員）

これでいいんでしょうか、横須賀市というように思います。これで何も策を講じないという感じをすごく受けてしまって、がっかりです。

（委員）

資料2の2ページの意見1と2ですが、私が出した意見だったと思ひまして、今更修正しろというのも非常に心苦しいですが、文面だけを読むと、統廃合に走水の保護者が納得してるというように読み取られかねないので、これを削除、若しくは逆説的に、現状かんがみると、難しいとは理解してますが、走水小学校を残して欲しいです。

我々走水の住人は誰1人、残して欲しくないという人はいないので、こういった記載だと住民も納得しているというように、この後の審議会で受けとめられることは本意ではないので、削除若しくはそういった趣旨の訂正をお願いしたいと思ひます。

○大堀教育政策課主査（事務局）

こちらの資料の訂正及び追加についてはそのようにしたいと思ひます。

（委員）

今の委員の意見に関連しますが、意見の順番は、会議で出た順番ではないですよ。会議を過去5回やりましたが、その中で出てきた順番とは到底思えないような順になってると思ひますが、いかがでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

順番については特に意図したものではなく、これまでの意見を集約した中で、同じ内容のものを合わせたり、並べ替えていく中で、このようになったものですので、特に順番を意図したものではありません。

順番についてもご意見があれば、お伺ひしたいと思ひます。

（委員）

方策案1の1の1と2を削除していただけるということによろしいですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

意見として削除ということであれば削除します。これまでの協議会の中で出た意見ですので載せています。取り下げるといふ趣旨でしょうか。

（委員）

こちらの意図としては方策案1の1の1と2というのは、一番先頭に来ていますが、これを重点的に申し上げたつもりはありません。他の方もそのような感じではなかったと記憶しております。

○大堀教育政策課主査（事務局）

順番の問題でしょうか。

（委員）

そう言ってしまえばそうなのですが、もう少し後の方に記載をしていただければありがたいです。これは誤解を招くので、訂正削除いただければ、そのようなことはずなのですけれども。

○大堀教育政策課主査（事務局）

順番を変えるということでは対応したいと思えます。

（委員）

田浦地域のご意見ですと、各項目の一番後ろの「意見等に対する事務局からの説明や教育環境整備計画における考え方」は別の冊子にして欲しいというご意見だったと聞きましたが、それについては決定されたのですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

田浦地域でそのようなご意見をいただきましたが、先ほど申し上げたように、両地域で審議会に上げますので、形としては揃えたいと考えております。

まずは田浦地域のご意見をお預かりして、走水・馬堀地域の協議会でご意見を伺った上で、形を整えたいと考えています。

（委員）

今回初めて参加します。不適切な発言になるかもしれませんが、前回までの資料を教育委員会の方が持ってきてくださいますので、全部目を通して、どのような議論がなされたのかなというのを一通り把握してきたつもりです。

今、フォーカスが当たっているのは、方策の検討についての1番2番の発言につい

てですが、おそらくこのような話というのはそれほど重要ではなく、どこかの段階で一言二言発言されたものがピックアップされていると思います。これはいわゆる取材の仕方とまとめ方の話で、取材者にとって都合が良い部分を切り出して、自分たちの考えに合うような形に整理をする、ある意味常套手段の一つかなと思います。

そのような意味では、教育委員会というのは、基本的にはファシリテーターとして、場の進行を盛り上げて議論を活性化するという任務のはずですが、最後のところに考え方というものを、枠組み付きで主張されているように、自分たちの中ではある程度、落としどころというか、結論ありきで議論されていたんじゃないかなと思います。

議事録を拝見すると、途中で委員の皆さんから出てきた意見を丸め込むような説明があり、これはあまり良くないんじゃないかなと思います。また、資料の中にも、例えば統廃合した学校に関するアンケート調査がありますが、基本的に児童が増えれば活性化するし元気になるし、楽しく楽しい雰囲気になりますと、そのようなアンケート項目がございすけれども、これはある意味やらなくても結果はわかっています。こんなアンケートはしないほうがいいです。

私が少し気になったのは、教職員の方々が出されている意見を見ると、かなり悪化したというような発言があります。半分以上占めているようなケースもありました。そのあたりが、教育環境整備という観点から本当に議論されていなかったのかなど。感情論と、結論ありきの形で議論が展開されていったんじゃないかと思います。

これは私の主観なので、間違っていたかもしれません。申し訳ないですけども、議事録を読んだ限りの話です。

また、統廃合という話であれば、基本的には、動的資源で議論すると失敗すると思います。動的資源、つまり児童数です。例えば防衛大学校の官舎若しくはその奥にある県営住宅あたりが、住居が用意されてますけれども、中に入る世帯というのは、毎回変わるわけです。そうすると、今の時点で児童数が少ないと言われても、10年後はどうかという予想ができますかという話です。

走水地区には、今、国有地が幾つか、払い出しというか、再開発の拠点になりそうな話もあります。県営住宅も今後改築されると聞いています。特に県営住宅に関しては、これから新しい建物になって、若い世代、特に所得に少し厳しいものがある方が入ってくるので、若い世代が入ってくる可能性というのは十分考えられるわけです。

そのように変化のあり得る部分が、実は走水小学校の学区の中で一番遠いところにある。つまり、馬堀小学校と統合すると、大半の児童に対して大きな負担を強いる。児童に負担を強いるということはその世帯に対して負担を強いる。これは少子高齢化対策として国が出している国策にも反するのではないのでしょうか。そのあたりの議論というのはあまりされていない、というところに関して私は非常に疑問を覚えました。

もう一つ、例えば統廃合しますという話になったとして、今、走水小学校を馬堀小学校に統合する、という案が出ていますが、逆はどうなんですか。走水小学校の児童を3キロ徒歩で通学させようというのであれば、馬堀小学校の学区から走水小学校に通学するというプランもあり得るのではないですか。そのようなシミュレーションはやっているのですか。シミュレーションはいくつかのパターンを試しました、との議事録を拝見しましたが、実際何を議論したのかというところは、隠されてる雰囲気です。オープンにしませんというような発言も聞きました。そうすると、教育環境という考え方でいくと、先ほど話したとおりに、動的資源ではなくて静的資源、つまり変化しない建物だとか、教育施設だとか、どのような教育教材があるのかというところをベースに、議論すべきではないでしょうか。

そう考えると、走水小学校、馬堀小学校、望洋小学校の三つが近い学区にあり、どれか一つを潰さなければ成り立たないというのであれば、どれを潰して、学生を配分すれば一番良いのかという議論になるべきだと思います。はなから動的資源である児童数が今少ないから、走水小学校を何とかしよう。潰してしまえばいいんじゃないか。これは、教育環境整備の本質を見失った議論じゃないですか。人は入れ替わりますが、施設はそう簡単には変わりません。そうすると、教育資源として最も魅力的な学校はどこかという話です。私は走水小学校のPTA会長なので、走水小学校の教育環境の魅力というのは十二分に承知してるつもりです。

議事録を見ると、走水小学校の教育環境は素晴らしいという発言があります。おそらく馬堀小学校の方の発言だと思いますが、そこが学区に入ってくるのは非常にウェルカムだという発言もあったようですけれども、そのような教育資源を120%生かせる学校はどこですか。馬堀小学校が、もし走水小学校を取り込んだとして、そこから5キロ6キロあるようなところにある観音崎一带の教育環境をうまく生かせますか。そもそもこの議論って何なんでしょうって話です。5回議論してきて、意見交換されている内容を見るとそのようなところが見えてくるわけです。

この結論に至りつつある一番の問題は、この資料の「意見等に対する事務局からの説明や教育環境整備計画の考え方」、これが根底にあるんじゃないですか。こういう観点を持ちながら、ファシリテーターとして、この会議に関与したから、本質的な教育環境の整備、魅力化、そのようなところの議論ができなくなっている。いかがですか。

少し時間を取り過ぎましたので、この辺で一旦、発言を控えさせていただきます。

(委員)

先ほどの委員ほどアカデミックな話はできませんが、「意見等に対する事務局からの説明や教育環境整備計画の考え方」の中で一番多く出てくるのは、小中学校の適正規模を12から24学級とすることであり、これにずっと固執してのご意見が、6ヶ所出てきます。これがありきということは、やはり一番数の少ないところを統廃合の的にしようという、言い方は悪いですが、本心が完全に見えているご意見のように感じました。

それと、最初に戻りますが、田浦地域の意見と同じく、走水小地域についても、この意見は別立てにさせていただいた方がいいのかなと思っております。私の指摘に関して、何かご意見ありましたらお答えいただければと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

事務局からの説明において、適正規模が12から24学級としているのは、事前にご提示している平成29年作成の適正配置基本方針に基づいてこの規模を適正という形にしております。それありきということであれば、基本方針に基づいて進めておりますので、11学級以下の学校が検討の対象となっているということは事実です。

(委員)

国会の正式な部会はわかりませんが、教育委員会の小規模校に対する問題のやりとりを、インターネットで見ることができます。その中で、文科省としては、小規模校を切るつもりはありませんと、こういう言い方をされてます。ただし、対応に関しては各自治体の判断に任せるという結論ですから、横須賀市は12から24学級を適正規模とおっしゃられるのも、やむなしなのかなと思います。ただし、国としては、小規模校を決して切り捨てるつもりはないということが大前提にあると解釈しています。それについて、あくまで12から24学級が理想だとおっしゃるといのは、腑に落ちないです。

(委員)

色々な意見があって、かみ合わないなと思う部分があります。本来であれば、児童数によって適正かというお話しで、再配置の問題を決めようとする。しかし、小学校の数というのは、今までずっと意見を出してるとおり、その地域のコミュニティとして機能してる部分があって、それが審議会で検討されるかどうか、そういったものも全く検討しないで、ばっさり審議されてしまうのがやはり一番、我々としては非常に心外であり、一番不本意だということでもあります。

今年、馬堀中学校のPTAをやって少し気が付いたことがあって、例えば、すごく小さなことですが、資源回収等、地域と小学校PTAで、小学校PTAが受け

皿になって業者とやりとりをして、地域の方にお願ひするという、そういった資源回収、リサイクルの体制ができてるわけです。そういったものは本当に、小さいながらも機能してるものを、小学校を潰したから、また新しく作り直すということが本当に良いことなのか、そういったところを考えたいです。

小学校は児童数が一番大きな問題ということは否定しませんが、それ以外の価値など、その地域のアイデンティティだとか、歴史とかそのようなものを背負って存在している。そういったものは人数だけでは検討されない。それが非常に住民としては不本意であるし、そういったものに対する手当てなり、サポートについて検討してほしいです。審議会は児童数によって決定したとして、では、そのフォローは誰がするのというところ、何か手当てをしてもらえるのかどうか、その辺のところも検討してほしいと思います。

(委員)

今の委員のご意見の続きですけれども、学校運営協議会という情報交換会が昨年12月にありました。そこで配られた資料の中に、学校は地域の中の学校であり続けること、これをメインの柱にして論じられました。片やこういった言い方をしており、こちらでは統廃合を進めたい。教育委員会はどっちが正しいのかなど。走水地域は独特な地域ですので、学校が地域の中の学校であり続けることが大事かなど。そこをメインに改めて訴えたいと思います。

(委員)

少しわからないので教えて欲しいのですが、資料の中に馬堀サポーターズと記載があります。PTA会長としては気になりますが、どのような活動をしている組織なのでしょうか。

(委員長)

馬堀小学校は、昨年度からPTAをやる方がいなくなりましたので、馬堀小サポーターズクラブというものを立ち上げました。

PTAに代わるようなものをやらなきゃいけないんだなと思い、立ち上げました。

馬堀小学校で地域づくり協議会というものを、15年前に作りまして、それがここにいる町内会長もですが、6町内の代表に集まっていたり、その中に、民生委員、子ども会、それと体育振興会、大体20名ぐらいで、2ヶ月に1回、15年前からずっとそれを民間でやっています。

私も15年前にPTA会長をやったときに、PTAが段々衰退していくのではないかと、地域が手伝わないと、これは無理じゃないかなと思ひまして、陰ながら皆さんで手伝ったり、6町内の壁を取ってしまつて、皆さんでやれば、町も良くなるんじゃない

いかなと思って、やらせていただいたものです。

その延長として、昨年からPTAが休止になってしまったので、校長ともお話ししまして、PTAがなくなってしまうと、子どもたちの安全安心だとか、そのようなところも担保できないんだということで、地域の方に手伝っていただこうと。ただ、保護者の方も中には、手伝える方もいらっしゃいますので、そこから募集いたしまして、サポーターズクラブというのを立ち上げてやっています。例えばPTAがやっている、通学路点検だとか、110番の家だとか、新入生用地図の作成だとか、できる人ができるところでやろうと。無理はできないだろうと。

PTAのお母さん方はお仕事をされていて大変だと思います。地域には、暇と言っちゃいけないんですが、リタイアしてお時間があるって、何かやりたいという方々がたくさんいます。そのような方々に対して、こういうものがありますと伝えると、やるよという方々が、15年前からおりまして、その中で防災隊というものも作りました。大体90名ぐらいの方々が一緒になって、馬堀小サポーターズクラブというものに入ってもらいまして、おそらく、校長も安心していただきながら、そのようなものをしていけば、いつかは、PTAもやりたいんだという方々も出てくるでしょうし、もしPTAが復活したら、それをサポーターズが後から支援して、お母さん方が役員になっても、実務はやらなくていいんだよと伝える。名前だけでもいいから、実働部隊は地域にこんなにたくさんいるんだよというものを、どんどん作ろうということでやっているのが馬堀小サポーターズクラブということでございます。

新しい試みで、横須賀地区の中でもPTAが休止してるということはないので、インターネットでも探しましたが、ここまでやってるところも全国でもないので、試行錯誤しながら、町内会長とも相談したり、皆さんとコミュニケーションをとってやっています。校長にはいつも喜んでいただいてやっています。

そのようにやっているのが、馬堀小サポーターズクラブです。

(委員)

地域コミュニティでそれぐらいの組織がきちんと運営できるのは素晴らしいことだと思うので、PTA会長としては、いろいろ情報等をいただくと、ありがたいなと思います。我々のPTAも、これから新しい形や、関わり合いや、組織づくり等を考えて、学校をより良く、サポートしていけるようにしていかなければいけない。形がサポーターズという形なのか、いわゆるPTAという旧来の形なのかは置いておいて、目標とするところはおそらく同じだと思います。

先日、学校で横須賀市PTA協議会の会議に出たときに、馬堀の方はほとんど出ていませんでした。代表になる方がいないから来ないということを知ったので、そのような形だとなかなか意見交換もできないので、せっかく情報共有や交換する場が提供されてるのですから、私はもう横須賀市PTA協議会から離れたから出ないというこ

とではなく、出ていただいて、ぜひ、お隣の学区なので、お話しを聞ければと思います。

(委員)

P T Aの規約とは全然違うので、結構難しいです。学校とも別の組織として、民間の組織でやっておりますので、それが今T Aに入ろうとしても、入ることはできない。例えばお金等色々な問題がありまして、P T A会費は取れませんから、逆に企業から協賛をいただいたりしてやるしかないのかなと考えています。その辺は試行錯誤しながらやっているところです。

教育委員会からすれば、これが良いものなのか悪いものなのかわかりませんが、そんなことではなくて、子どもたちが安全に楽しく、地域の方と一緒に暮らせるというのが、大切だと思います。繋がりにから色々なことがあると思いますが、根本は子どもたちをどうしようということ、常にそれを考えています。

(委員)

私の認識としては、地域防災の拠点として学校が機能するときに、三者の橋渡しをする役割をP T Aは果たすのかなと思います。とても重要な防災だとか、人命を助けるとか、子どもたちを見守り育てるということ。そのような観点からしたときに、サポーターズという形になった場合に、できなくなってることはないのかなというのは少し気にはなっています。少し制約が出始めてるとおっしゃられて、おそらくそこはこれから超えるハードルになってくるのかなと思うので、その辺りが気になっています。ただ、うまく解消すれば、良い組織になり得るのかなと思います。

(委員長)

私は今回から中学校の学校運営協議会に入らせていただいて、お話しをしています。中学校も、昨年からP T Aが少し衰退して、どうにかやっていたんですが、そこに突如、委員がP T A会長になりました。P T Aの参加率が、約60%入られている。60%強とご説明があったんですが、どうしても役員になっても手伝えない方が多いです。それを、できれば地域の方々に、小学校だけではなくて、中学校の色々な行事だとかそのようなものも、手伝えれば良いなという話も、学校運営協議会でさせていただいたところです。

(委員)

委員はすごく忙しい方です。今の話ですと、時間があるような雰囲気でしたけれども、すごく忙しい中、時間を割いて、会議やP T A活動等に参加されています。走水の方なので、そのあたりのマインドというか、精神については、おそらく走水小学校

のPTAの中で培われて、その意識が残っておられるから引き受けていただいたんだろうなと思います。

統廃合と話が逸れてしまいましたが、今後一緒にやっていくとなった場合そのようなサポート体制というのはすごく気になるところなので、確認させていただきました。

(委員)

150周年記念のお話をしていただければありがたいかなと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

150周年の時に少しお話させていただいた件でよろしいでしょうか。

引き受けるに当たって考えたものがあって、昔熊谷にいた時に、小平小学校というのがあって、そこで明治の時から伝わっている教育の道の心得という言葉がありました。教育の道の心得というのは、家庭の教養で芽が出て、学校の教養で花が咲き、社会の教養で実がなるという言葉です。私はずっとその言葉を言っていて、やってくださいと言われたときに、お話ししようということで、僭越ながら、力不足ながら引き受けさせていただきました。

この2年間、色々なコミュニティがマスクをしたり、会話ができなかつたりと、当たり前だったものが遠ざかって、その中でずっとやってきて、日頃の日常って当たり前のことは当たり前じゃないんだなということに、2年間3年間、すごく思いました。しかし、その命の尊さとか時間が流れてきて、万物はどうしても変わっていかざるをえない部分があるのですが、変わっていく中で自分のやることをやってきた歴史が、日本の歴史にあるんだなとずっと思っています。その歴史の始まりが、日本書紀や古事記に出てくるヤマトタケルノミコトとオトタチバナヒメの話があって、何かのために身を尽くす、そういった優しさと強さが、日本に昔からあって、それをつないでいるところが走水小学校です。その走水に近いところで咲いた花が社会に日本に世界に、豊かな未来に飛び出すような存在であって欲しいということで、お話しさせていただきました。そういった象徴的な、日本書紀から続く、伝統のある走水神社があります。移転はしましたが、そういった流れを汲む小学校。そういったものをなくすのは簡単なんですけれども、それを一回なくしてしまうと、150年だけではなくて走水地域が持っていた歴史だとかそういったものが失われてしまう。それが走水の住民にとっては非常に代えがたい。感情的にアイデンティティを喪失してしまうので、今後変わっていかざるをえない部分はあるにしても、それを守っていくようなところで小学校を機能させていきたいという、お話しさせていただきました。

(委員)

150周年の記念行事ですけれども、そこに行くに当たって、先ほど言われた学校運営協議会で、横須賀市教育委員会の方が、学校地域の中の学校であり続けるということを出していて、これって本当に素晴らしいことで、そのとおりだなと思いますし、そのような学校でありたいと思って、小学校に着任し取り組んでるところです。その中の一つの機会として150周年の記念行事があったかなと思います。

今までの会議の中でも同じことを話してますけれども、走水小学校は人数が少ないので、できないことはできないんです。しかしできることを選択して、そこに焦点を当てて取り組んでるところが、今学校として、ベストを尽くしてるというところになります。その中で、150周年の記念行事を子どもたち主体の集会という形で行いました。子どもたちが司会をし、子どもたちが地域で学んだことを語り、それを地域の方々に聞いていただくという会にしました。

これは本当に地域の方々に、喜んでいただけたと思っております。次の日にも、たくさんの方々にお電話をいただいて、よかったというお話を聞かせていただきましたので、先程の学校地域の中の学校であり続けるというところに、近づけたのではないかなと思う会だったと思います。

事務局の方に質問になりますけれども、委員が言われた教育資源を一番生かせる学校はどこだ、というような話がありましたので、ここの部分について、事務局は教育資源というものをどのように捉えているかお答えいただけたら、ありがたいです。

○川上学校教育部長（事務局）

非常に難しいものになると思いますが、一つはおそらく皆さんが想定されてるように自然環境であったり、ハード面的には、校舎であるとかグラウンドであるとか、学校の中の教育施設、そういった部分になるんじゃないかなと思います。

(委員)

周辺環境や、子どもたちが育つ場等についてはどのようにお考えでしょうか。

○川上学校教育部長（事務局）

自然環境であるとか、そういった子どもたちが育ちやすい環境だというふうを考えております。

(委員)

走水小学校の周辺には、歴史遺産のようなものがたくさんあります。例えば走水神社に関しては日本神話に通じるようなお話もありますし、戦争遺跡もあります。ご存じのように埤頭砲台跡、防空壕跡、弾薬庫等の施設もあります。少し足を延ばす

と、美術館、自然博物館等、日本でもかなり歴史のあるヴェルニーの灯台もあります。そのようなところに、校外学習のような形で、実際に現地に行って、物を見て、それについて調べて、それを、児童一人一人が報告をする。これは少人数であるからこそできる部分もあると思うんですが、やはり教育環境が整っているからこそだと思うんですね。

統廃合で走水小学校がなくなって、寂しいという感情的な意見も出ておりますけれども、この教育環境を失うというのは、横須賀市の教育としては大きな宝を失うことになるんじゃないかなと思います。であれば、これを生かす方法を模索すべきじゃないかと。今回話題になっている走水小学校と馬堀小学校と望洋小学校、3校ございますが、どれか一つを廃校にしようという議論ではなくて、共存共栄の道というのを議論すべきなんじゃないかなと思います。例えばこの3校を姉妹校として連携させて、走水小学校のような教育資源を生かす教育を、走水小学校主体で実施する。大人数でないと難しいようなスポーツ、音楽活動、意見交換等、教育委員会の方で出されてる方策に基づく話だと思いますが、集合教育の様な機会を何とか設けさせていただくとか、そのような工夫の仕方もあると思います。そうすると、お互いの学校の良さ、子どもがたくさんいる学校、子どもはいないけども教育資源に恵まれてる学校、双方の良さをうまく複合することによって、理想的な教育環境を地域全体として整理できるんじゃないかなと思います。

実は、正直サポーター組織は心配でした。どんな組織なんだろうと、みんな無責任で、関わりたくないからなすりつけあって、仕方なくご年配の方が、サポーターズというボランティア団体を作って何とか支えてるんじゃないかなと。そのように思いましたけれども、委員長の方から、そんなことはなくて今組織づくりを取り組まれてるということをおうかがえたので、今後良くなっていくんだろうなと思います。

走水は委員のように、PTAマニアみたいな方もいます。それぐらい地域と学校が連携して教育していこうという地域の雰囲気があります。その一つの成果が、蛍の里です。稲作の教育指導も、地域の方にボランティアで来ていただいてやっています。そのような中で、非常に魅力的な教材だとか地域の雰囲気が整っている走水小学校を失うというのは、横須賀市全体として大きな損失になるんじゃないかなと思います。教育環境整備の観点から議論した結論として、おそらくその方向というのはあまりよろしくないんじゃないかなと個人的には思います。

○川上学校教育部長（事務局）

教育環境という部分で、走水小学校にとってアクセス的に近い教育環境というものもありますし、今おっしゃられた灯台であるとか、美術館も横須賀市のものですが、それから歴史的産物もありますが、それがなくなるわけではなく、例えば、馬堀小学校の方が、そこに校外学習で行って、同じようなこともできるでしょうし、近くの鴨居小学校ですとか、久里浜の学校から走水に来て、その教育環境を生かした学習をしてるところもありますので、決して走水付近の教育環境がマイナスだという認識ではないということをご理解いただければと思います。

○古谷教育総務部長（事務局）

先ほどの委員のご質問は教育資源を一番生かせる学校はどういった学校かというご質問だったかと思うので、そのご質問に沿った回答をします。

ご紹介いただいたようにどこの地域にも、教育資源というものはあります。自然環境であったり、地域の人たちであったり、走水であれば、海、美術館、歴史遺産。馬堀であれば自然教育園もあります。どこの学校にも様々な教育資源というものがあるわけですが、それをどうやって生かして、学校教育をやっていこうかというときに、学校教育という場であれば、ある程度の規模は必要だというのが、今回の議論の大前提でございます。

それは、規模ありきの話という言い方もありますが、先ほど事務局から説明したとおり、横須賀市として、適正な教育環境というのはどのようなものかというのを、年月をかけて議論してきた中では、やはり学校には、適正な規模があるだろうと考えています。その規模の中で、色々な教育活動ができるし、また子どもたちは、様々な人間関係の中で、色々なことを将来に向けて学んでいきます。

また、ある程度の規模があれば、多くの先生と出会えます。教員の数というのは学級数で決まっていますので、規模が小さい学校ですと、どうしても先生の数というのも少なくなってしまいます。ある程度の規模があれば、より多くの先生と出会えるというようなメリットもありますし、先生方にとっても、学校がチームとして色々な活動していく、児童指導に当たっていく中でも、規模というものが必要になってまいります。

1クラスですと、クラス替えができない。そうしますと人間関係がこじれた時に、リセットする場がない。そして1クラスしかないということは、先生が学年の経営を1人でやっていかなければならない。1人でその学年の色々な行事をすべて組み立てていかなければならない。

また、新規採用の若い先生を育成していかなければならないときに、同じ学年で、自分の経験を生かして色々な指導をしていくということができなくなっている状況で、非常に課題だと捉えています。

また、教育指導面でも、体育の授業で球技を教えていくときに、学年の児童数が10人若しくは1桁という規模でどのように集団のルールを教えながら、ルールを守らせながら、教育活動に当たっていくかという部分も、厳しくなっています。そういったこともありまして、先ほど申し上げた適正規模というのが、クラス替えができる規模、小学校であれば12学級、中学校であれば6学級、それから24学級までというものを適正規模と捉えており、それが、委員がおっしゃったように、教育資源を一番生かせる規模であるというふうに考えているということです。

(委員)

教育資源を生かすのに、適正な人数というお話しがございましたが、走水小学校が持っている資源等は、少人数の方が生かしやすい場合もあったりすると思います。例えば、大人数だと海浜水泳できますか、という話なんですけれども、他にもいろいろあると思います。

走水小学校周辺の教育資源を一番生かせるのは、走水小学校だと確信しています。これまでそれを生かした教育というのも数多く試みられており、非常に成果を上げています。児童も、大人数だと経験できないような役回りを、児童一人一人が何かしらの形で関わりを持っていくことができます。

クラス替えの話も一長一短あるのかなと思いますけれども、走水小学校の児童は、少人数ですけれども非常に仲が良い。最初から仲が良いのかということそうではありません。走水小学校の児童は、全国から集まってきます。防衛大学の官舎もございまして、転校してくる子が多い。そうすると、最初はなかなか合わないような子もいます。けれども、長い時間一緒に過ごしているうちに、お互いの良さだとか、そのようなものを知り合えるようになります。そうすると最後には、馴染めなかった子たちも一緒になって、教育を受けたり、活動したり、黙りがちだった子が活発に発言をするようになっていきます。そのような面では、大人数だと埋もれてしまうような子どもたちが生かされていく可能性もあります。これはおそらくこの議論の焦点になると思うんですけど大人数教育と少人数教育のメリットとデメリットというのがありまして、我々としては、どちらをどう重視してどちらを切るのかではなくて、どちらも生かしていけるような教育環境を作っていけないかというところが重要だと思っています。

統廃合ではなくて共存だとかうまく連携するような、教育環境をこの機会に検討して組み立てていくというのは、一つのモデルケースになり得るんじゃないかな、と思います。

走水小学校はご存知のとおり非常に魅力的な教育環境が整ってますし、そこをなくして、何かしら防災施設にするだとか、宿泊施設を作るだとか、誰が管理するのかわからないような議論があったりしますけれども、そこはやはり何かしらの形で生かし

て、良い教育環境を作っていくことができればいいんじゃないかなと思います。

(委員)

少しお聞きしたいです。小規模とか大規模という話が出ましたが、人数的にどの程度までだったら小規模と想定していて、何人を超えたら大規模と想定していますか。

私の子どもが馬堀小学校に通っていますが、馬堀小学校も、1学級20人程度だったりします。私としては20人が別に大規模という気はしなくて、ほどよい人数で子どもたちはやれているんじゃないかなと思っています。

(委員)

人数の規模の話ですけれども、大規模小規模という表現はなかなか難しいです。抽象的というか、曖昧な表現なので、何とも言えませんが、クラス全員の児童を完全に掌握できる人数というのが教育上一番望ましいと思っています、それを超えてくると、なかなか目が届かないところもあると思います。逆に、走水小学校というのは、小規模とも言えないぐらい少ないというのが現状だと思いますので、そこは縦割り班でのグループ検討のような教育上の工夫で取り組んでいます。

委員がおっしゃられるように10人から20人ぐらいというのは、ある意味一つのちょうどいい人数というのはあるのかなとは思っています。

(委員)

随分話題が遡ってしまいましたが、150周年記念の集会について、先ほど委員から、子どもたちが自主的に運営をやって大変盛り上がったとありました。

私も一番印象に残ったのが、6年生の男子児童だったと思いますが、「あと10年、15年、いや、大人になってからもう一度帰って来たい学校です」と、こういう言い方を子どもの1人が言いました。おそらく、他の子たちもそのように思っただろうと思います。そのようなことを自発的に言える環境であることは素晴らしいと、大変感激、感動を覚えました。

もう一つ、地域の話ですけれども、うちの近所にある学校教育研究所、正式な名称はわかりませんが、そのの所長をやってらっしゃった方がまとめられた意見書を、市の教育委員会に送りました。走水地域の明治とか大東亜戦争とか、そこらあたりの話になってくるんだと思いますけど、第三海保を作った時の山を削って、土地を提供した。それから先ほど委員の方からもありましたが砲台跡があつて、走水地域は、軍事的な施設が多かった。一生懸命、国のために尽くした地域なのに、そのようなところで育った学校を本当に切り捨てていいのかと、こういう意見書を、12月の頭ぐらいだと思いますが、教育委員会宛に出しましたと、こう言われました。そんなことがあったのかと思ひまして、一言もそのような話はフィードバックいただいていたの

で、あえてこの場で言わせていただきたいと思います。どなたが受け取った方いらっしゃいますか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

資料を受け取りました。事務局内で配布し、拝見いたしております。

（委員）

通学路の安全性の話で、資料を拝見して気が付いたんですけれども、馬堀小学校の前の交差点って洪水で沈みませんか。あそこは大雨が降ると水がでてしまうと思います。

（委員）

交差点の方は大丈夫です。交差点よりもっと少し馬堀寄りの方がありません。

（委員）

何回かそのような状況で、車で帰れなくなってしまったことがありました。出勤時は大丈夫だったが、帰れなくなったということがあったので、帰宅困難に子どもたちがなった時にどうしようかということ、そのあたりがかなり気になる場所なんですけれども、その辺の情報というのは上がっていたんですか。地域のそのような被災状況について。

○大堀教育政策課主査（事務局）

その地域の洪水等、いわゆるハザードマップ等の話は上がっていません。

（委員）

ハザードマップではなくて、まずそのような事例についてです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

地元ならではの話しということで、雨が降った時にそこは洪水になる、等のお話しは協議会では出ていません。

（委員）

結構重要なことだと思うので、把握していただければと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

なかなか地域の状況というのがわからない部分もありますので、そのような情報がありましたら、ご提供いただければと思います。

（委員）

今このまま終わってしまうと方策案3までで終わってしまうと思うんですが、統合するのか、生かすのか、新しい仕組みを投入するのかという話だと思うんですが、案4というのは必要ですか。いろいろ考えられると思います。例えば、馬堀小学校を二つに分けて、走水小学校と望洋小学校に学区を分ける。ということをおそらく反論が出るので、方策2に繋がるとは思います。教育のやり方等、そのような連携の形を模索して、走水小学校も生きるし、馬堀小学校の方も新しい教育環境を手に入れることができる、いわゆる連携するというようなアイデアがあってもいいのかなと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

本日は1回目から5回目までの意見の整理ということですが今回第6回目として、委員からご提案いただいておりますので、その意見も含めて、資料に盛り込んで、審議会の方に提出したいと思います。

（委員）

教育委員会の意見を別立てにするしないというところはまだ決まっていなかったと思いますがどうしますか。それと、審議会に出されるのはいつごろでいらっしゃるのか。

○飯田教育政策課長（事務局）

審議会の予定につきましては現状6月の末を予定してございます。そこから審議を始めるという形になりますので、それが何回かになるかというのはまた、今ここではお話しができませんし予定はまだ決まっておりません。

（委員）

別立てにするかどうかについては、別立てということによろしいでしょうか。

（委員長）

それではよろしいようですので、これで第6回は走水・馬堀地域小学校教育環境整備検討委員会は終了とし、進行を事務局へお返しいたします。よろしくお願ひします。

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは事務局から連絡事項についてご説明させていただきます。

本日の内容を踏まえまして、先ほどのご意見を盛り込んだ中で、意見等の概要を後日、委員の皆様にご改めて送らせていただきます。その内容のご確認をまずお願いして、その確認を経て審議会の方へご提出していきたいと考えています。また今お話ししましたが、審議会の日程につきまして6月末を予定してございますので、よろしくお願いいたします。

次に、本日の会議録についてです。確認用の会議録が作成できましたら、お送りいたします。内容をご確認いただき、修正がある場合には、送付文に記載の期日までに、事務局へご連絡ください。修正しました会議録を皆さまへお送りし、ホームページ等で公開いたします。

次に次回の開催予定ですが、現時点は未定です。審議会の開催状況にもよりますので、日程については、別途、委員の皆さまと調整いたしますのでよろしくお願いいたします。

ただいまの内容について御所、ご質問ありましたらよろしくお願いいたします。

（委員）

訂正を少しお願いしたいところがありまして、資料2の7ページです。前回の第5回の議事録も間違っていましたけれども、7ページの3番、跡地利用についての3番の項目です。学校施設としての建物については、震災時の「小さな」、ではなくて、「地域の」、なはずです。小さな避難所というのは、おかしな話ですので、そこは訂正をしていただきたいと思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

修正いたします。

○古谷教育総務部長（事務局）

委員の方から、この会の運営が、事務局が結論ありきで、保守的に進めているかのような発言がありましたので、そこは訂正をさせていただきたいと思います。

今回この協議会を設置した経緯としては、審議会がこれから具体的な審議をしていくに当たって、地域の実情をきちんと把握した上で審議をしていく必要がありますので、地域の関係者の方、保護者の方、学校関係者の方に集まっていただいて、この場で、様々なお立場でご意見をいただきたいということです。このご意見については、ここで結論を出していくというのではなくて、フラットに事務局として審議会にお伝えするつもりです。そういった意味でも、今日、これまで出てきた意見について

は、すべて一覧にして、これでよろしいですかとご確認いたしました。今日の議論で、追加した部分についても審議会に提出する前には、もう一度委員の皆様にご確認します。協議会で出た意見として、ある方向性を集約することは決してせず、出てきた意見をそのまま審議会に上げたいと思っております。

事務局としての考え方については、基本方針を持って計画を策定して、小規模となった2校についての教育環境を整備していくための、方策を考えるに当たってお示しをする必要があるかと思っておりますので、それをこれまで会議の中で、事務局の立場として発言してきたものです。あくまでもそういったものですので、ここで何か方向付ける、結論を出すという会議等ではなかったということについてはご理解をいただきたいと思っております。

(委員)

第5回まで出ていないので、会議の様子はわかりません。ただ、資料のまとめ方を見た時に、最後に、総まとめの意見のような形で、教育委員会の考え方が示されてしまうと、おそらく審議会に上がったときに、そのような考え方に陥りやすいと思えます。これは資料のまとめ方としては適切ではないと思えます。

最初に委員からもございましたけれども、方策の検討についてナンバー1と2が目立つ位置に書かれてしまうと、走水地区の皆さんが致し方ない、統廃合を容認するというふうに捉えられても仕方がない。これは資料のまとめ方としての適正を欠いているというところに関しては明確に指摘させていただきたいというふうに思えます。

○古谷教育総務部長（事務局）

今いただいたようなご意見が田浦の地域でもありまして、そういった意味からも今回は地域別協議会での意見は意見として、そして事務局としての考え方についてはまた別資料ということで、審議会の方に渡したいと思っております。

(委員)

いずれにしろ最終的な報告資料はまた案をご提示いただけるということなので、そちらの方でしっかり確認させていただければと思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは委員長、委員の皆様ご協議ありがとうございました。

以上で第6回走水馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会を終了いたします。

以上